

学生団体いきものずかんの活動について

井口菜穂、今若舞、崎村真優、中村晃大、中村こころ
(兵庫県立大学 学生団体いきものずかん)

1. 活動の概要と目的

いきものずかんでは、主に幼稚園～小学2年生を対象としたわかりやすい環境教育を行っています。小さな子どもでも理解しやすいように、紙芝居やクイズ、折り紙などを使用して、楽しく学べる工夫をしています。将来の自然環境を守る担い手を増やしていくために、子ども達が少しでも自然環境に興味を持ち、自然を好きになる機会をつくることを目的に活動しています。

2. 「海と空の約束」を用いた環境教育活動

「海と空の約束 (神戸新聞 mook)」は、明石市在住の絵本作家・環境教育コーディネーターである西谷寛さんが作成された、自然環境の大切さを伝え、考えるための絵本・紙芝居です。物語は「海」と「空」を擬人化して展開され、お互いに助け合いながら生き物達と暮らし、友情を育んでいくという、感情移入しやすいお話になっています。

いきものずかんでは、この紙芝居の作者である西谷寛さんと一緒に、主に神戸や明石の児童館、幼稚園を巡って紙芝居の読み聞かせを行っています。紙芝居の後には内容や環境問題にまつわるクイズを出題して、子どもたちの理解を深めるようにしています。

3. オリジナル紙芝居「ゆうたくんとイヌワシ」を用いた環境教育活動

2016年度に「ゆうたくんとイヌワシ」というオリジナル紙芝居を作成しました。現在は児童館や兵庫県立大学で開催される「エコフェス」、人と自然の博物館で開催される「ドリームスタジオフェスタ」などで使用しています。この紙芝居の読み聞かせやその後に行うクイズを通して、子ども達に絶滅危惧種であるイヌワシの名前を知ってもらい、また、子ども達が絶滅危惧種に興味を持つ機会になればと思っております。



写真1. 公園での紙芝居の様子



写真2. ドリームスタジオフェスタでの紙芝居の様子

4. 「あわじ菜の花エコプロジェクト」紙芝居作成

今年度は、「あわじ菜の花エコプロジェクト」を子ども達にわかりやすく伝えるための紙芝居を作成しました。「あわじ菜の花エコプロジェクト」とは、休耕田などに菜の花を育て、菜種油をしぼったり、廃食油を回収して燃料をつくったりと、クリーンなエネルギーや資源の循環を伝えていくことを目的とした取り組まれている活動です。絵や脚本などを1から考え、企画された「環境立島淡路」島民会議、あわじ菜の花エコプロジェクト推進部会の皆様とも相談しながら、より良い内容になるように、試行錯誤して作成しました。

循環型社会を伝えるモデルとして、淡路島にとどまらず、私たちの活動でも広く活用していく予定です。

5. ビオトープの再建

大学キャンパス内に現在は使われていないビオトープの設備があり、このビオトープを再建して地域の方々や子ども達といきものを観察できる場所を作りたいと考えております。現在はまだ整備する段階には進んでおりませんが、整備方法などを考え協議しております。

6. キャンパス内の図鑑作り

私たち学生が通う兵庫県立大学環境人間キャンパスは自然豊かで、四季折々の植物や、鳥、虫などを見ることができます。この動植物を撮影し、キャンパス内の「いきものずかん」を作成したいと考え、取り組んでいます。

7. その他の活動

生き物の折り紙や生き物のお絵かきなどを活用し、絶滅危惧種について紹介したり、住処や人との共生を考えたりなど、紙芝居以外の活動も行っています。

また、海や川でのゴミ拾い活動、子どもたちと野生の生き物の観察を行う活動、こども園のビオトープの整備のお手伝いなど、様々なイベントにも積極的に参加しています。実際のフィールドにすることで私たち自身も学び、そこで感じたことを子どもたちに還元していこうと思っております。



写真3. 海でのゴミ拾いの様子



写真4. 川での生き物観察の様子